

1 在宅医療の支援体制の構築

サポート体制

- (1)医療(在宅医、看護師)のサポートが受けにくい
→訪問診療等を断られるケースが高齢者の在宅医療と比べて多い
- (2)障害児を療育に繋げにくい
→親や本人の理解不足や、関係機関における療育の受入れ先の把握が十分でないため、療育にスムーズに繋げることが困難
- (3)関係機関とのネットワーク構築
→関係機関相互のネットワークが十分に構築できておらず、情報が得られにくく、自らが保有する資源も有効に活かされていない
- (4)自治体の支援体制の構築
→県からの権限移行から日が浅く市町村職員の経験が不足している
→保健師等の専門職員が不足している
- (5)福祉現場での医療従事者の確保
→福祉の現場に医療ケアを実施することができる看護師等が不足している
- (6)ライフステージに応じた在宅療養環境の構築
→保育や教育現場において、医療従事者が不足しており、ライフステージ(幼児期、学齢期等)に応じた適切な医療支援が受けにくい

人材育成

- (7)医療ケアに対応可能な人材不足
→医療ケアの対応方法などの知識不足や、取扱うケースが少ないことにより、実践経験が不足している
- (8)コーディネーター(主たる相談者)が不在
→ケアマネージャーのような主たる相談者が不足し、相談先や情報が混在

場の確保

- (9)短期入所・放課後等の利用可能な施設が少ない

2 情報活用

- (1)在宅医療の医療・福祉資源の把握

3 その他